

定例記者会見 議事録

【司会】

それでは只今から定例記者会見をはじめます。

初めに、平成 29 年西条市議会 9 月定例会提出予定議案についてです。市長、お願いします。

○平成 29 年西条市議会 9 月定例会提出予定議案について

【市長】

みなさん、こんにちは。お忙しいところお集まりいただきましてありがとうございます。平成 29 年 9 月定例会提出予定議案等について発表させていただきます。

まず、定例会の招集日は 8 月 29 日火曜日、提出議案については、予算案 6 件、条例案 1 件、その他案件 7 件の合計 14 件を予定しています。

続きまして、今回の補正予算の概要ですが、国際交流の推進や自治体シンクタンクの設置など、私が掲げています「ワクワク度日本一の西条」実現を推進するための取組のほか、社会福祉施設や教育施設の安全性向上を図るための経費や農林業・観光産業の振興に要する経費など、速やかに対応すべき、また、今回計上することが適当と判断したものについて厳選して措置を行いました。

主な内容は、オーストリア共和国セーボーデン市との国際交流の推進や自治体シンクタンクとして、仮称ですが「西条市自治政策研究所」を設置することといたしました。

次に、社会福祉施設や教育施設の安全性向上については、レジオネラ属菌の発生を未然に防ぐための対策や小中学校体育館床板の事故防止のための修繕を行います。

また、農林業・観光産業の振興については、新規就農者の確保・支援や各種の生産力向上に向けた取組に対する助成を行うとともに、石鎚山を活用した秋・冬山イベントの商品化への支援などを行います。

この結果、一般会計補正予算額は 2 億 5,759 万 3 千円、特別会計 5 件の補正予算額の合計は、2 億 4,150 万 8 千円で、一般会計、特別会計合わせた合計では、4 億 9,910 万 1 千円の増額となっています。

なお、詳細については、担当部長から説明をさせていただきます。

○議案関係詳細説明

【総務部長】

私から、議案第 106 号及び 107 号につきまして、「平成 29 年 9 月定例会提出議案概要（記者発表資料）」に基づきましてご説明を申し上げます。

1 ページ、議案第 106 号ですが、条例で予定価格が 1 億 5,000 万円以上の工事契約は議会の議決が必要なことから提出するものであります。

2 ページ、議案第 107 号は、本市北西部における救急業務の充実強化を図るため、平成 31 年度中の運用開始を目標に事務を進めております、仮称であります、西条市西消防署河北出張所の新設に伴い、消防職員の定数を 12 名増員するものであります。

○予算関係詳細説明

【財務部長】

私からは、「予算及び決算関係」の議案第 97 号から第 105 号まで、及び「財政健全化判断比率」などの報告第 13 号から第 15 号までにつきまして、ご説明を申し上げます。

『平成 29 年 9 月定例会 提出議案概要』の 3 ページをご覧ください。

報告第 13 号「平成 28 年度西条市財政健全化判断比率及び公営企業における資金不足比率の報告について」から、5 ページの報告第 15 号「平成 28 年度西条市公営企業における資金不足比率の報告について」までの計 3 件につきましては、地方公共団体の財政の健全化に関する法律の規定によりまして、議会に報告するものであります。

本市の財政健全化判断比率であります、実質公債費比率は 8.4% で前年度と比較いたしますと 1.2 ポイント改善いたしております。将来負担比率は 64.1% で前年度と比較いたしますと 0.1 ポイント改善いたしております、いずれも健全なものとなっております。

また、公営企業におけます資金不足比率でございますが、ご覧の特別会計と、4 ページ及び 5 ページの水道事業、病院事業におきましては、「資金不足はなし」となっておりまして、いずれも健全なものとなっております。

次に、議案第 103 号「平成 28 年度西条市一般会計及び特別会計歳入歳出決算の認定について」から、議案第 105 号「平成 28 年度西条市病院事業会計決算の認定について」までの計 3 件ですが、本案は、地方自治法の規定により、議会の認定を賜ろうとするものでありまして、それぞれ決算書等を調製いたしております。

次に、『平成 29 年度 9 月補正予算について』をご覧ください。

1 ページは、9 月補正予算の概要につきまして掲載しておりますので、後程、ご覧いただければと思います。

2 ページ、9 月補正における「会計別予算の規模」であります。一般会計の「9 月補正予算額の欄」ですが、2 億 5,759 万 3 千円で、累計予算額は、右側の「計 (A) 欄」ですが、461 億 966 万 4 千円となり、前年同期と比較いたしますと、「(D) 欄」ですが、金額で 11 億 7,816 万 3 千円、率にいたしますと、右端の「増減率の欄」ですが、2.5% の減となっております。

特別会計の主なものを申し上げますと、介護保険特別会計で、補正予算額が 2 億 3,640 万 6 千円など、5 つの特別会計で、小計の欄ですが 2 億 4,150 万 8 千円となっております。

これらの全会計を合計いたしますと、一番下の合計欄になりますが、補正予算額は4億9,910万1千円で、累計予算額は、819億7,856万2千円となっており、前年同期と比較いたしますと、金額で25億6,253万3千円、率にして3.0%の減となっております。

続きまして、一般会計におけます主な事業につきまして、ご説明申し上げます。

3ページ、「西条東部・東予南地域交流センター管理運営事業」及び「総合福祉センター管理運営事業」84万1千円は、レジオネラ属菌類の発生を未然に防止するため、当該施設の浴場設備等の配管洗浄を行い安全で快適な施設環境の整備に努めるものです。

次の「心身障害児(者)施設整備助成事業」1,206万9千円は、福祉型障害児入所施設「東予学園」及び共同生活援助施設「西条福祉園ケアホーム」の施設整備に要する経費に対し助成を行うもので、「東予学園」においては重度の障がいを持つ利用者への支援を充実するため定員10名の入所施設を整備するもので補助金1,195万7千円を、また「西条福祉園ケアホーム」においては施設内の防犯対策を強化するため事故防止カメラを設置するもので、補助金11万2千円を助成するものです。

4ページ、「放課後児童健全育成事業」920万3千円は、壬生川児童クラブが現在使用している建物は、築後51年が経過した旧耐震基準の木造建物で老朽化が進行しているため、壬生川小学校の特別教室を改修し移転して引き続き事業を実施するものです。

6ページ、「小学校理科教育設備整備事業」950万円は、観察、実験を始めとする体験的な学習を充実し、児童の科学的な思考力、判断力、表現力の育成と学習意欲の向上を図るため、理科教育に必要な備品を市内25の小学校に整備するものです。

次の「小・中学校体育館床緊急修繕事業」392万3千円は、体育館の床板の剥離による負傷事故が全国で発生している状況を受け、緊急点検により、破損や不具合が確認された小・中学校体育館床の修繕を実施するものです。

7ページ、「次世代ファーマーサポート事業」1,566万2千円は、新規就農者の確保・定着や優良農地の維持強化を進める施策をソフト・ハード両面から総合的に実施していくため、新規就農者向けの栽培研修圃場の設置をはじめとするJA周桑の新たな担い手確保・育成対策の取り組みに対して、助成を行うものです。

次の「紅い雫・さくらひめ生産拡大支援事業」211万3千円は、県が本県農業振興の一翼を担う新たな品種と期待しているいちごの「紅い雫」、デルフィニウムの「さくらひめ」の生産拡大を支援するため、新規栽培時の優良種苗の導入や品質向上技術拡大の取り組みに対して助成を行うものです。事業実施主体は、市内のいちご園など4つの農業経営体であります。

8ページ、「えひめ型水田フル活用促進事業」3,188万5千円は、水稲を用途別に分化したうえで、麦、大豆、野菜等と組み合わせた「水田フル活用」を先導するモデル農場を育成し、水田全体の生産力向上につなげるとともに、水田農業経営の安定化を図るもので、視察研修や農業用機械等の導入経費に対し助成を行うものです。事業実施主体は、JA周桑であります。

次の「効率的野菜生産流通改革モデル事業」2,614万3千円は、野菜の生産・流通改革により地域農業の活性化を図ることを目的に、食品関連企業等の実需者の要望に応じた、加工・業務用野菜を生産拡大するための農業用機械等の導入経費に対して助成を行うもので

す。事業実施主体は、J A西条であります。

9 ページ、「次世代につなぐ果樹産地づくり推進事業」2,674 万円は、次世代につなぐ果樹産地を育成するため、労働力や担い手の確保、園地力強化、商品力の向上を図るため、生産機材や機器等の導入経費に対して助成を行うものです。事業実施主体は、J A周桑、J A東予園芸であります。

10 ページ、下段の「東予東部圏域振興イベント開催事業」166 万 3 千円は、西条市、新居浜市、四国中央市の 3 市が地域特性を生かし、東予東部初となる圏域振興イベントを開催することで、圏域の一体的、持続可能な発展に繋げるものです。イベントの平成 31 年開催に向け実行委員会を、3 市はもとより愛媛県及び関係団体等で組織し、「山」と「ものづくり産業」を切り口として広く PR し、交流人口の拡大や定住、移住の促進を図るものです。

11 ページ、「石鎚山を活用した秋・冬山イベント事業」50 万円は、石鎚山の閑散期である晩秋から冬にかけて、継続的に実施できるイベントを商品化し、観光入込客数及び滞在時間の増加を図り経済波及効果の増大を目指す事業を支援するものです。

12 ページ、「自治体シンクタンク設置事業」159 万 3 千円は、地方自治体が直面している人口減少、超高齢化社会の中で、本市が「勝ち残り」を目指した独自性のある、まちづくりを展開していくため、自治体シンクタンク機能として「(仮称) 西条市自治政策研究所」を設置し、政策課題の調査研究、主要データ分析などの政策支援、職員の政策形成能力の向上に取り組み都市総合力の強化を図るものです。

次の「国際交流事業（オーストリアとの都市間交流）」408 万 8 千円は、本市の国際交流活動の新たな展開として、盆栽ミュージアムを通じて交流のあるオーストリア共和国セーボーデン市を中心に教育・文化・産業など幅広い分野での同国との都市間交流を促進するための事業内容の協議と、併せて 2020 年東京オリンピック、パラリンピック競技大会に向け、クライミング競技の先進国である同国ナショナルチームの事前キャンプ誘致に向けた交渉活動を行い、国が推進する「ホストタウン」への登録を目指そうとするものであります。

以上で予算関係の説明を終わらせていただきます。

【司会】

それでは只今説明いたしました内容につきまして、ご質問がございましたら挙手の上、お願いいたします。

【記者】

「西条東部・東予南地域交流センター」などのレジオネラ菌対策は、レジオネラ菌がいろいろなところで検出されたことを受けての対策という理解でよいか。

【市長】

この件については、我々、非常に申し訳ないということで、施設関係者含め一同に会して、その研究をさせていただきました。西条保健所、県当局、民間の温浴施設の方にも集まっておいただき、検討会を開かせていただきました。そのアドバイス等々を踏まえて、今後「起こさない」ということで、更なる対策を講じていくときにこのような事業が必要であるという認識に立って、今回、計上させていただきました。

【記者】

「心身障害児（者）施設整備助成事業」の西条福祉園の防犯カメラは、相模原の事件を受けての対策ということか。

【市長】

きっかけはそうです。あのような重大な事件が発生して、我々、福祉施設等々しっかり管理していくうえで、侵入を防ぐ一つの手段、抑止力にもなると考えており、設置事業を実施するということです。

【記者】

小・中学校体育館床緊急修繕事業で、緊急点検で発覚した不具合とはどのようなものか、またその原因は。

【教育委員会管理部長】

全国的に重大な事故が発生しており、床の割れた部分（「削げ」）が腹部に刺さる事故が多発しているということで、国から注意喚起の通知を受け、緊急点検により、必要な補修をする予算を計上させていただいております。

【記者】

床が割れたりするのは、普通に使用していても起こるのか。

【教育委員会管理部長】

経年劣化もありますし、濡れたもので拭いたりしていると、そういったことが起こりやすいということで、管理上の注意も国からいただいております。ほとんどが経年劣化です。

【記者】

西条市内での怪我の報告は。

【教育委員会管理部長】

ございません。

【記者】

今回不具合が確認された学校（小学校 8 校と中学校 4 校）で、市内のすべての小中学校の不具合は改善されるということか。

【教育委員会管理部長】

国からの通知を受け、学校側に点検を依頼し、その報告により出てきたものを今回対応することとなっております。

【記者】

オーストリアとの国際交流事業について、オリンピックの事前合宿誘致を行うとなっているが、スピード競技の壁が必要になると思うが、オリンピック仕様に施設を改修していくことも想定しているのか。また、オーストリアのナショナルチームのオリンピック出場可能性など、どのように考えているか。

【市長】

国体仕様でリード競技とボルダリング競技の施設があります。ご指摘のとおり、スピード競技を加えた 3 競技によってオリンピックが開催されるのですが、今はスピード競技の施設がありません。日本レベルの大会、あるいはワールドカップの大会を招致していくうえでは必要になる施設であると認識していますので、さまざまなアプローチにより、予算も確保しながら、施設の充実については行っていかなければならないと考えています。

オーストリアの出場については、現在、確定したものではありません。球技のように大会が開かれて決まるというよりも、個人の力に委ねられています。今のところでは、オリンピック出場が決まっている選手はいないと認識しています。

【記者】

オーストリアのセーボーデン市はどの辺りにあるのか。

【副市長】

オーストリアの南の方。イタリアとスロベニアとの国境の少し北側です。

【記者】

自治体シンクタンクとはどういった組織か。第 3 セクターなのか市役所内の一組織なのか、財団法人なのか。既存の市役所内の組織ではダメなのか。

【市長】

「生き残り」ではなく「勝ち残り」を目指すとっていますが、独自性のある地域づくりを展開するためには、強み・弱みを含め、調査・研究機能を有する必要があるという認識ですが、今、政策・研究に特化した体制ができていないというのが一つ。それと統計データの戦略的な分析が弱いということ。もう一つは、職員の政策形成能力の向上の仕組みが弱いという現状を鑑みて、研究所という名称にしていますが「調査・研究機能」、「政策支援機能」、「政策形成能力の育成機能」という3つの機能を有した組織をつくっていきたいと考えています。

今の案では、私のマニフェストの具現化、中長期的な視点からの政策課題の分析、解消を図ることを目的に、シンクタンクに調査・研究に取り組んでもらいたいと思っています。初年度は、人口動態についてあるべき姿を明確化していこうということで活動してもらおうと考えています。

2つ目の「政策支援機能」としては、全庁的に取り組む課題について、人口動態をはじめとする各種統計・調査結果の分析を通じて、傾向や課題分析、将来予測を行うこと、そしてマニフェストを着実に実行していくための進捗管理、政策推進に係る支援機能を持たせたいと考えています。

最後に政策形成能力育成機能は、若手職員に、単なる研修だけではなく、政策形成能力を高めていくために、職員自らが自主的に研究会を立ち上げ、アドバイザーからの指導を受けて個々の能力を高めていこうという、3つの機能を有する庁内の組織です。

【記者】

専任の職員を配置するのか。

【市長】

そういうことです。

【経営戦略部長】

皆さんにお配りしている予算資料その2をご参照いただければと思います。

【記者】

経営戦略部長が所長を兼務するということか。

【経営戦略部長】

はい。

【記者】

予算成立後、いつ設置されるのか。

【経営戦略部長】

大学との連携等もありますので、そういった了解が得られた後に開所するようになります。11月ぐらいには開所したいと考えております。

【記者】

企画部門との違いは。

【経営戦略部長】

シンクタンクは、全庁的な課題を解決するために、深堀をして専門的にデータ等を研究する組織です。

【市長】

限られた人数で幅広くやらなければならない中で、なかなか分析ができていない実態がありましたので。

【記者】

専任の職人は何人を考えているか。

【経営戦略部長】

今は所長、副所長、主任研究員の3名です。

【記者】

その下に「研究員」とあるが。

【経営戦略部長】

それは今後。また「特定研究員」というのは事案が出ましたら関連の部署から来ていただくことにしています。

【記者】

シンクタンクの事例は目にするが、県内での事例はあるか。

【経営戦略部長】

県内は今のところございません。

【司会】

それでは続きまして西条市公式インスタグラムの開設についてです。市長、お願いします。

○西条市公式 instagram（インスタグラム）を開設について

【市長】

西条市公式インスタグラムの開設についてご説明をいたします。

私が当選させていただいて、組織、街をプロモーションして売っていかうと言ってまいりました。本市の魅力発信の一環として、本日8月22日、西条市公式instagram（インスタグラム）を開設したいと思っております。

今回のインスタグラムですが、西条の魅力を写真で伝え、シビックプライドの向上や市外からの来訪を促していきたいと考えています。

そして「市民参加型」のアカウントとし、職員の投稿に加えて、ハッシュタグ・ラブ・西条（#lovesaijo）を付して投稿された写真等につきましては、我々職員の側が選考の上、公式アカウント（ラブ・西条（lovesaijo））に掲載していくことになります。

投稿する内容につきましては、西条市から転出した人にとっても懐かしく郷土愛が感じられるような「市内の美しい、きれいな風景」ということで、地域の魅力を再発見できるきっかけになることを目指してまいりたいと考えております。

【司会】

それでは実際に、シティプロモーション推進課によるデモンストレーションをお願いします。

【シティプロモーション推進課長】

それでは公式インスタグラムの投稿までの流れを簡単にご説明いたします。こちらが本日開設いたします公式インスタグラム（ラブ・西条（lovesaijo））のトップページです。市のホームページからも見られるようになっております。ハッシュタグ・ラブ・西条（#lovesaijo）に投稿された写真を、市の職員が運用基準に基づき、こちら（ラブ・西条（lovesaijo））の方に掲載するようになっております。こういった市内のきれいな写真が並ぶようになっております。

続きまして、非公式ではありますが、ハッシュタグ・ラブ・西条（#lovesaijo）をつけてこれまで一般の方から投稿されてきた写真でございます。今日時点で634件となっております。こちらはどのように風景だけではなくて、想い想いの写真を2か月余りの間、投稿いただいたものです。

【市長】

ちなみに「いもたき」の写真は私の写真です。

【シティプロモーション推進課長】

それでは、市長から写真を投稿していただきます。

【市長】

はい、それでは早速送ります。ちょっと時間がかかりますが、新居浜市でも同じような

取り組みをされていると思いますが、最近、インスタグラムの方が若い人たちを中心に増えてきています。一方で、言葉を書くツイッターの方は減ってきていることもありますので、私たちは写真に特化したものにしていきたいと考えております。

これは、私が水の輪プロジェクトとか四国各地から来たお客様と一緒に、山頂を目指して歩いた時の石鎚山天狗岳の写真を投稿させていただいております。

【シティプロモーション推進課長】

このようにハッシュタグ・ラブ・西条（#lovesaijo）の一覧の中に市長の写真が投稿されています。ここから市の職員が、先ほど申しあげました運用基準に基づいて選定をしたうえで、公式インスタグラム（ラブ・西条（lovesaijo））に掲載するようになっております。

インスタグラムについては、特に若い世代に利用が多いという状況で、このようにお互いにコメントでやり取りをすることも可能となっております。西条市内の風景を見て、「帰ってきたいな」とか「懐かしいな」などのコメントもいただいております。このようにコメントがどんどん入っていくようになっております。

【記者】

さっきの入れ墨のようなものは何か。

【シティプロモーション推進課職員】

市内の事業者が施されている「消えるタトゥ」のようなもののようです。こちら（ハッシュタグ・ラブ・西条（#lovesaijo））にはどのような投稿も上がるようになっておりますので、お店の宣伝やイベントの告知も含まれます。

【シティプロモーション推進課長】

こちら（ハッシュタグ・ラブ・西条（#lovesaijo））は非公式ですので、いろいろなものが投稿されてきます。この中からふさわしいものだけをピックアップして公式インスタグラム（ラブ・西条（lovesaijo））に掲載していくということです。

【市長】

新居浜市が先に取組まれていると思いますが、私どもは写真に特化したものにしていきたいと思っており、風景を中心に、フィルターをかけながらふさわしいものを公式インスタグラム（ラブ・西条（lovesaijo））に掲載していきたいと思っております。

【司会】

只今説明いたしました内容につきましてご質問がありましたら、お願いいたします。

【司会】

よろしいでしょうか。では、本日はこの他に、鉄道歴史パーク inSAIJO 開館 10 周年記念イベント「鉄道ホビートレイン運転体験の開催と地元体験の募集」についての資料を配

布しております。

【司会】

それでは本日説明させていただきました以外に質問がございましたら、挙手の上、お願いいたします。

【記者】

北朝鮮のミサイル報道があるが、職員を警戒のため動員するなど新たな対応をとったか。

【危機管理監】

北朝鮮のミサイルに対しては、先般、国、県からどういった対応を取ればよいかご指導いただきました。我々としても何かあれば、すぐに災害対策本部に駆けつけて情報収集を行ってまいりたいと考えております。

動員については、緊急の際には4名で対応することとしております。

【記者】

24時間体制で職員が対応する体制は。

【危機管理監】

危機管理課ではそういった体制はとっておりませんが、県が警察と消防に24時間体制で情報を入れるというように調整しております。

【記者】

先日、Jアラートの訓練があったが、不備や改善点はなかったか。

【危機管理監】

不備等はございませんでした。今後、吉岡地区での訓練がどういった訓練内容だったかということ ホームページ等で市民に周知していきたいと考えております。

【記者】

10月に愛媛3区で衆議院選があると思うが、候補者も出そろい、玉井市長の支持は。

【市長】

特定の候補者を、という話ではなくて。厳しい時代になってくる中で、また地方創生という大きな動きの中で、愛媛3区が欠員状態ですので、西条市にとってふさわしい、市民県民に寄り添っていただける候補者を応援していきたいと思っています。

【記者】

最近、四国でも新幹線を誘致しようという動きがあるが、市長は四国新幹線についてどのような考えか。

【市長】

都市間交通という中で、バスは大きな打撃を受けると思っています。費用対効果がありますが、四国の経済の発展のために、四国の遅れを取り戻す起爆剤となるのであれば、これについて反対する必要はなく、これからの動向も踏まえながら、私の方としては推進ということで取り組んでいきたいと思っておりますので、そういった協議会等々については参画していこうと思っております。

【記者】

建設となると地元自治体も巨額の建設費や、今できているところ、これから建設中のところ、並行在来線のところで苦勞しているようですが、その辺りはどうか。

【市長】

予讃線レベルでも長浜あたりの路線が疲弊してしまいます。内子を通っていくということで外れていきます。そこを補う公共交通が必要になってくると思います。先が見えない話なので具体的には答えようがないですが、既存のそういったところに影響を及ぼすこととなりますので、そのカバーと、今後のありようについては、人の流れ、物の流れとが非常に大切なところですので、費用の抛出については、それ相当の負担があると思いますが、金額等々が見えてきていない中でコメントのしようがないですが、そういう思いの中で取り組んでいきたいと思っております。

【司会】

それでは以上で、定例記者会見を終了させていただきたいと思っております。ありがとうございました。